

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第1区分
 【発行日】平成20年1月10日(2008.1.10)

【公表番号】特表2007-513354(P2007-513354A)
 【公表日】平成19年5月24日(2007.5.24)
 【年通号数】公開・登録公報2007-019
 【出願番号】特願2006-542816(P2006-542816)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 3/56 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N	3/56	K
G 0 1 N	3/56	F
G 0 1 N	3/56	N

【手続補正書】
 【提出日】平成19年11月16日(2007.11.16)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

試験片を保持する試料ホルダと、
 前記試験片に押し付けられて前記試験片との間に摩擦摩耗を発生させる押圧手段と、
 前記押圧手段に結合され、前記押圧手段が所定の押圧力を前記試験片に加えている間、
 前記試験片の平面内で前記押圧手段に所定の移動を与える駆動ユニットと
 を具え、前記押圧手段は、最小直径(d_1)と、最大直径(d_2)と、前記試験片の表面
 から所定の距離(L)に配される回転中心軸線を有し、前記駆動ユニットにより回転中心
 軸線の周りを回転し、 $d_1 < L < d_2$ の場合に前記試験片と断続的に直接接触して接触時
 に最大応力が与えられるように前記試験片に対する押し付けが制御されるカムであり、
 試料ホルダは、これに結合される弾性部材により、前記試験片に加えられる前記押圧力
 に応じて前記試験片を前記押圧手段に対し変位可能とすることを特徴とする摩耗試験機。

【請求項2】

試験片を試料ホルダで保持する工程と、
 押圧手段を前記試験片に押し付けてこの押圧手段と前記試験片との間に摩擦摩耗を発生
 させる工程と、
 前記押圧手段に結合される駆動ユニットを用い、前記押圧手段が所定の押圧力を前記試
 験片に加えている間、前記試験片の平面内で前記押圧手段に所定の移動を与える工程と
 を具え、前記押圧手段は、最小直径(d_1)と最大直径(d_2)とを有し、前記試験片の
 表面から所定の距離(L)に配される回転中心軸線を有し、前記駆動ユニットにより前記
 回転中心軸線の周りを回転し、 $d_1 < L < d_2$ の場合に前記試験片と断続的に直接接触し
 て接触時に最大応力が与えられるように前記試験片に対する押し付けが制御されるカムを
 具えることを特徴とし、

また試料ホルダは、これに結合される弾性部材により、前記試験片に加えられる前記押
 圧力に応じて前記試験片を前記押圧手段に対し変位可能とすることを特徴とする摩耗試験
 方法。

【手続補正2】
 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

本発明の一態様に従って手短に述べると、試験片を保持する試料ホルダと、試験片に押し付けられて、試験片との間に摩擦摩耗を発生させる押圧手段と、押圧手段に結合され、押圧手段が所定の押圧力を試験片に加えている間、試験片の平面内で押圧手段に所定の移動を与える駆動ユニットとを具える摩耗試験機が提供され、本押圧手段は、最小直径（ d_1 ）と、最大直径（ d_2 ）と、試験片の表面から所定の距離（ L ）に配される回転中心軸線を有し、駆動ユニットにより回転中心軸線の周りを回転し、 $d_1 < L < d_2$ の場合に、試験片と断続的に直接接触し、接触時に最大応力が与えられるように試験片に対する押し付けが制御されるカムであり、試料ホルダは、これに結合される弾性部材により、試験片に加えられる押圧力に応じて試験片を押圧手段に対し変位可能とする。

この摩耗試験機を用いることを特徴とする駆動システムモータも本発明の別な態様に含まれる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

本発明の他の態様によると、試験片を試料ホルダで保持する工程と、押圧手段を試験片に押し付けてこの押圧手段と試験片との間に摩擦摩耗を発生させる工程と、押圧手段に結合される駆動ユニットを用い、押圧手段が所定の押圧力を試験片に加えている間、試験片の平面内で押圧手段に所定の移動を与える工程とを具える方法が提供され、本方法は、押圧手段は、最小直径（ d_1 ）と、最大直径（ d_2 ）とを有し、試験片の表面から所定の距離（ L ）に配される回転中心軸線を有し、駆動ユニットにより、回転中心軸線の周りを回転し、 $d_1 < L < d_2$ の場合に、試験片と断続的に直接接触して接触時に最大応力が与えられるように試験片に対する押し付けが制御されるカムを具えることを特徴とし、また試料ホルダは、これに結合される弾性部材により、試験片に加えられる押圧力に応じて試験片を押圧手段に対し変位可能とすることを特徴とする。

この摩耗試験方法を用いることを特徴とする駆動システムモータも本発明のさらに別な態様に含まれる。